東京日々新聞

九百三十三号

本郷三丁目の飯島安五郎と下人の養女おちんと言ふが元の夫喜三郎と殺されさそうぶら一体此度三郎と言ふ常州真壁郡市野辺村の白沢千兵衛手人の二男で経師職あるとおちんが智を貰さ度が我意者で養父母の教訓を少しも聴ず夫故平日家内ゲ不穏て夫婦中不熟度々媒妁とーと人が立入て異見して濟ーと事もあれど鬼角無法斗り言ふ故つゐよ金子を遣て離縁して其事を役所へも届事濟よありーと如何心得違ち二月十一日の夜中おちんが家へ忍入て同人の口へ短刀を突込殺しーよ掛さとおちんの大声を揚さので両親が驚ておちんが傍へ行て見ても行燈へ消て真黒暗あんぐらから火と燈じて見ると離縁ーさ聟殿が白首を持て立て居ておちんの血ぐらけて死で居る故仰天ーて四隣へ知らせ巡査へ知らせさうら河野某と言ふ巡査が直駈附けて召捕さが何さ人殺ぐらう打首ゐるあらぐろう誠ー和愚人ゐ用り升と其愚ゐ及ぶべからぬと 待乳山藪 温克堂龍吟記

聖人も お歎息 あさまし